



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2021/12/18 公開

◆終末預言シリーズ (前兆編) ◆

# 21 「携拳は艱難時代の前に来る」

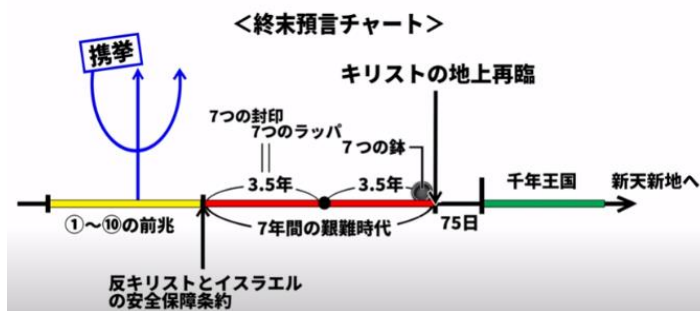
東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は、“携拳が患難時代の前に起こる”と私が信じる理由について、ご紹介したいと考えています。携拳が患難時代の前に起こるということは、今イエス・キリストを信じている人たちは艱難時代には突っ込まない。艱難時代が始まった時に地上にはいないということです。

私がそのように信じる聖書的根拠については、以前別の動画をアップしています。それは、東住吉キリスト集会の YouTube 動画 # 121 『聖書的な終末論と終末期の聖書預言 I 』。これは動画は無くても音声だけのデータなんですが、みっちりとお話しています。ただ…長いんですね。約 1 時間 20 分あります。もうタップリ、艱難前に携拳がある根拠を 8 つか 9 つくらい述べているのですが、長くても、携拳の入門メッセージになっているので、ぜひご覧頂けたら嬉しく思います。

今日は、その動画の中でも敢えて触れていなかった根拠について、1 つご紹介したいと思います。その説明をする前に、終末時代に起こることを時系列で並べているチャートを見ていただきましょう。これは私が自分で書いたものです。



矢印が左から右に向かって、時代が進んで行っていると考えてください。ある時 7 年間の艱難時代 (赤のライン) が起こります。この 7 年間は前半と後半に分けることができます。後半 3 年半の時に反キリストが自ら神宣言し、この世界をムチャクチャにします。

赤のライン (艱難時代) の前に黄色のラインがありますね。これはプレ艱難時代。艱難時代が起こる前に 10 個の前兆が時代順番に起こります。その 1 つ目は世界大戦。第一次世界大戦。そのやり残しである第二次世界大戦。これらは既に起こりました。つまり、今私たちは、艱難時代の前兆が次々起こる時代に生かされているのです。

艱難時代の後 75 日間の準備期間を経て、緑色のラインがありますね。これは千年王国。至福の時代。イエス・キリストが統治する、世界中の隅々にまで祝福が行き渡る時代が千年間続く。それが終わって、新天新地の時代が始まります。

さて、艱難時代を非常に詳しく記録しているのが黙示録です。実は艱難時代の出来事については、聖書全体のあちらこちらに断片的に紹介されてるんです。断片的なので、艱難時代 7 年間のどの辺りにその事件が起こるのかがよく分からないんですね。

ヨハネの黙示録は、黙示録以前の断片的な情報を全て時系列で並べている預言書なんです。バラバラのパズルをピタリにはめ込んだ、絵にして映し出しているのがヨハネの黙示録だと言えます。

7年間の艱難時代のことは黙示録では6章から19章ですが、非常にユニークな文学形式で書いています。3つの段階に分けて書いているんですね。7つの封印の時代・7つのラッパの時代・その後の7つの鉢。

私が小中高の学生時代は、1年間の学びが3つに分かれていました。1学期が終わると2学期が始まり、2学期が終わると3学期が始まる。それと同じように、ヨハネの黙示録では7年間の艱難時代を3つの段階に分けてるんです。



7つの封印は艱難時代 前半3年半の前半。前半の前半。

7番目の封印が解かれると7つのラッパが出て来る。

7つのラッパの時代は艱難時代 前半3年半の後半。

7番目のラッパが吹き鳴らされると、いよいよ7つの鉢が出て来る。これは後半3年半全体かと言いたいところですが、そうではないんですね。後半3年半のいよいよラストのラスト。

私は、おそらくキリストの地上再臨まであと1か月というようなタイミングではないかと考えています。その理由は別の動画でご紹介したいと思います。

7番目のラッパが吹き鳴らされた時にどんな事が起こっているのか、を説明している黙示録の箇所を実際に読みたいと思います。黙示録 11章 15-16節

**第七の御使いがラッパを吹いた。**

7番目のラッパが吹き鳴らされた。前半が終了して後半が始まる。後半幕開けの合図が吹き鳴らされた。

**すると大きな声が天に起こって、こう言った。**

7番目のラッパが吹き鳴らされると、それまでフォーカスしていた地上のことではなく、天にフォーカスが移るんですね。

**この世の王国は、私たちの主と、そのキリストのものとなった。主は世々限りなく支配される。**

**すると、神の御前で自分たちの座に着いていた二十四人の長老たちが、ひれ伏し、神を礼拝して言った。**

7番目のラッパが吹き鳴らされた時、すなわち、後半がいよいよ始まろうとした時に、神の御前で天にいる24人の長老たちと言われている人たちが神を礼拝した。

7年間の後半3年半は、前半も酷いけど、比べものにならないほど酷い時代ですよ。

そんなに酷い時代がいよいよ始まろうとした時、天にいる24人の長老たちが神に感謝して礼拝した。いったいなぜ礼拝したんでしょう。2つの理由があります。

■いよいよ後半3年半が始まることで、反キリストの国が消滅・強制終了されるのが目前になった。

後半3年半は、“悪魔・反キリスト・偽預言者”の悪の三位一体が世界を舞台に暴れまわります。メチャクチャにします。その支配を遂に終わらせる。その終了が目の前に迫った！

「だから神よ、あなたを賛美します」と礼拝しているのです。

■この悪の王国が終わった後、次に始まるのが千年王国だからです。

キリストの統治によって世界中が平和になり、至福と祝福が世界の隅々にまで行き渡る時代が千年間続くのです。

つまり、最悪のものが除去されるので神を礼拝し、最高のものが到来するので神を賛美している。それが、ここで言っている 24 人の長老たちの祈りの内容なんですよ。

ところで、24 人の長老たちは天にいます。

もし“**艱難時代後半に天にいて、神を崇めている 24 人の長老たちは携挙された教会である**”ということ  
を証明できたら、“**教会は艱難時代、地上には存在せず天にいる**”ことの立証になります。  
そこで、“この 24 人の長老たちは携挙された教会なのか”について説明したいと思います。

24 人の長老たちの登場は**黙示録 11 章**が初めてではありません。最初の登場は**黙示録 4 章 2 節**。

**2.たちまち私は御霊に捕らえられた。すると見よ。天に御座があり、その御座に着いている方がおられた。御座に着いている方は神。天に御座があり、御座があるのは天。天の御座（玉座）に神がおられる。**

**4.また、御座の周りには二十四の座があった。これらの座には、白い衣をまとい、頭に金の冠をかぶった二十四人の長老たちが座っていた。**

24 人の長老たちが座っている 24 の座はどこにありますか？ **御座の周りには二十四の座があった。**  
御座はどこにありますか？ **天に御座があり。**だから、24 人の長老たちが座っているポジションは天です。  
くどいようですが、24 人の長老たちは地上にいません。天にいます。

さて、24 人の長老たちとは何を表すのでしょうか？

**黙示録 5 章 8-10 節**

**巻物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老たちは子羊の前にひれ伏した。彼らはそれぞれ、豎琴と、香に満ちた金の鉢を持っていた。香は聖徒たちの祈りであった。彼らは新しい歌を歌った。**

**「あなた（イエス・キリスト）は、巻物を受け取り、封印を解くのにふさわしい方です。あなたは屠（ほぶ）られて、すべての部族、言語、民族、国民（くにたみ）の中から、あなたの血によって人々を神のために贖い、私たちの神のために、彼らを王国とし、祭司とされました。彼らは地を治めるのです。」**

「イエス・キリストよ、あなたは巻物を受け取るのにふさわしいお方です。なぜなら、**あなたは屠られた。**」  
**屠られる**というのは単なる屠殺ではなく、人間の罪のためにイエス・キリストが犠牲のいけにえとして、  
私たちの身代わりとなって、十字架の上で死んでくださったことを言っているのです。

**すべての部族、言語、民族、国民の中から、あなたの血によって人々を神のために贖い。**

キリストの十字架の犠牲で、国境や民族を超えて救われた人々がいる。これは誰のことでしょう？

教会です。教会はクリスチャンたちの共同体です。クリスチャンは白人の人たちだけじゃない。

有色人種の人たちも含めて全ての人類・民族の中からイエス・キリストを救い主と信じる人たちは、**キリストの血によって神のために贖われた人々**です。この**人々**はクリスチャンのこと。それ以外に該当するものがないんですね。

ところで、新改訳聖書 2017 版では、**あなたの血によって人々を神のために贖い**、と訳されているんですが、実は新約聖書のほとんどの写本では、**あなたの血によって私たちを神のために贖い**、と訳されているんです。つまり、「世界中から救われたクリスチャンは 24 人の長老たちとイコールだ」と言うのです。

ここで写本について解説させていただきます。聖書は最初の原本は失われて 1 冊も現存しません。

その代わりに、原本を書き写した書物（写本）がおびただしく残っています。

特に三大写本と言われているものが、シナイ写本、アレクサンドリア写本、バチカン写本です。

なぜ三大写本と言われているのか？ 新約聖書は**マタイの福音書**から**ヨハネの黙示録**まで全部で 27 巻・27 種類の書物の合本です。この新約聖書のほとんどを網羅しているのが三大写本なんですね。

三大写本の中で、**あなたの血によって人々を神のために贖い**、と訳しているのはアレクサンドリア写本だけで、他の 2 つは**あなたの血によって私たちを神のために贖い**、と訳しているんです。三大写本の 2/3 は、24 人の長老たちは誰か他の人々を指しているのではなく、“自分たちのことを歌っている歌”として紹介しているのですね。

三大写本以外にも、新約聖書には約 2500 のおびただしい写本があります。それらが三大写本の中に入れられないのは、写本としての価値が無いからではありません。27 巻全部揃っているのではなく、一部を写本として残している・一部だけを写本にした。それで三大写本の中に入れられてません。

これら 2500 の写本の全部が、これを**人々**ではなく**私たち**と訳してるんです。24 人の長老たちは自分たちのことを指して、「**すべての部族、言語、民族、国民の中から、あなた（キリスト）の血によって、この私たちを神のために贖ってくださいました**」と神に感謝している歌であるというのです。

それから、2 世紀の頃（約 1800 年前）に、シリア語に翻訳され完結しているシリア語聖書があります。三大写本は大体 5 世紀ごろの写本ですが、それよりも 300 年くらい古い聖書です。そのシリア語聖書も、**人々**ではなく**私たち**と翻訳しています。

つまり、現存する新約聖書の写本のほとんど全部が**私たち**と訳しているわけですね。**人々**という訳は、たくさんある写本の中のたった 1 つの写本に根拠を置いて**人々**と訳しているんです。圧倒的多数というか、アレクサンドリア写本以外の全部の写本は**私たち**。「世界中の国境や民族を超えて、キリストを信じて救われた私たち」と 24 人の長老たちは言っている。

私は“24 人の長老たちは教会を表す”と解釈するのが正しいと信じています。いや、そうすべきであると確信しています。

ということはどうなりますか？ 艱難時代の中に既に天国にいて、これから始まろうとすることを予期して、神に礼拝を献げている 24 人の長老が教会なら、艱難時代に教会は地上にいないということです。

そして、**黙示録**で「24 人の長老たちが天にいる」という描写は **4 章と 5 章**に出て来ます。艱難時代は **6 章**からスタートします。つまり、彼らは艱難時代が始まってから登場するのではなく、始まる前に天にいる。24 人の長老たちが教会なら、教会は艱難時代の前に引き上げられていると言えるのです。これ以外の明快な根拠については # 121 をご覧頂けたらなと思います。

さて、皆様のお陰でチャンネル登録者が 29,300 人になりました。年内 3 万人突破めざせ！と、今ほんとにワクワクしています。3 万人に到達した暁には、スタッフたちと一緒に焼き肉に行って、大好物の牛タンを食べたいと思います。

また、皆様にも何か特別な企画をお届けできたらいいなと、今 無い知恵を絞っているところでございます。よろしければ、お友達にも『ごうちゃんねる』を紹介していただいたらとっても嬉しいです。また このチャンネルでお目にかかりましょう。チャンネル登録もお願いします。それでは皆さん、さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。